

# 今月の経済動向 (2019年2月)

## ● 月例経済報告 (2/21)

<p><b>基調判断</b></p>	<p>(2月) 景気は、緩やかに回復している。 雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p> <p>(1月) 景気は、緩やかに回復している。 雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行きなど海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>
<p><b>個人消費</b></p>	<p>(2月) 持ち直している。</p> <p>(1月) 持ち直している。</p> <div data-bbox="687 465 1362 862"> <p style="text-align: center;">消費総合指数と実質総雇用者所得</p> </div>
<p><b>設備投資</b></p>	<p>(2月) 増加している。</p> <p>(1月) 増加している。</p> <div data-bbox="687 875 1362 1272"> <p style="text-align: center;">製造業・非製造業の設備投資 (実質)</p> </div>
<p><b>住宅建設</b></p>	<p>(2月) おおむね横ばいとなっている。</p> <p>(1月) おおむね横ばいとなっている。</p> <div data-bbox="687 1285 1362 1682"> <p style="text-align: center;">住宅着工戸数 (季節調整値)</p> </div>
<p><b>雇用情勢</b></p>	<p>(2月) 着実に改善している。</p> <p>(1月) 着実に改善している。</p> <div data-bbox="687 1695 1362 2092"> <p style="text-align: center;">雇用者数、就業者数の推移</p> </div>

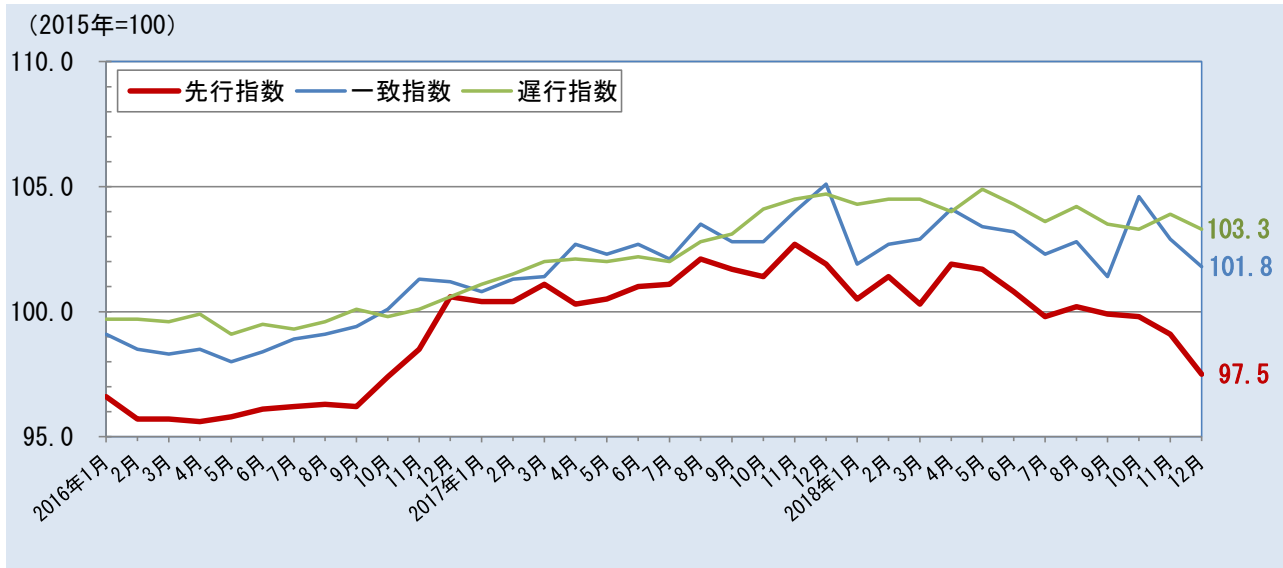
<p><b>生産</b></p>	<p>(2月) <u>一部に弱さがみられるものの、緩やかに増加している。</u></p> <p>(1月) 緩やかに増加している。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100)</p>																								
<p><b>輸出</b></p>	<p>(2月) このところ弱含んでいる。</p> <p>(1月) このところ弱含んでいる。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 (2015年=100) ①輸出</p> <table border="1" data-bbox="1236 638 1348 862"> <tr><td>EU</td><td>12月</td><td>+5.2%</td></tr> <tr><td></td><td>3MA</td><td>+4.0%</td></tr> <tr><td>アジア</td><td>12月</td><td>▲3.1%</td></tr> <tr><td></td><td>3MA</td><td>▲0.4%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>12月</td><td>▲0.4%</td></tr> <tr><td></td><td>3MA</td><td>+1.1%</td></tr> <tr><td>アメリカ</td><td>12月</td><td>+5.1%</td></tr> <tr><td></td><td>3MA</td><td>+2.0%</td></tr> </table>	EU	12月	+5.2%		3MA	+4.0%	アジア	12月	▲3.1%		3MA	▲0.4%	全体	12月	▲0.4%		3MA	+1.1%	アメリカ	12月	+5.1%		3MA	+2.0%
EU	12月	+5.2%																								
	3MA	+4.0%																								
アジア	12月	▲3.1%																								
	3MA	▲0.4%																								
全体	12月	▲0.4%																								
	3MA	+1.1%																								
アメリカ	12月	+5.1%																								
	3MA	+2.0%																								
<p><b>国内企業物価</b></p>	<p>(2月) このところ緩やかに下落している。</p> <p>(1月) このところ緩やかに下落している。</p>	<p>企業物価の推移 (2015年=100)</p>																								
<p><b>消費者物価</b></p>	<p>(2月) このところ横ばいとなっている。</p> <p>(1月) このところ横ばいとなっている。</p>	<p>消費者物価の推移 (2015年=100)</p>																								
<p><b>海外経済</b></p>	<p>(2月) 世界の景気は、<u>アジア及びヨーロッパの中では弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。</u> 先行きについては、<u>全体としては緩やかな回復が続くことが期待される。</u>ただし、通商問題の動向、中国経済の先行き、政策に関する不確実性、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</p> <p>(1月) 世界の景気は、一部に弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。 先行きについては、<u>緩やかな回復が続くことが期待される。</u>ただし、通商問題の動向、中国経済の先行き、政策に関する不確実性、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</p>																									

● 景気動向指数（2018年12月・改訂値）

2018年12月のCI一致指数（改訂値）は前月より1.1ポイント低い101.8ポイントとなり、2か月連続の下降となった。3か月後方移動平均は前月より0.013ポイント高い103.1ポイントとなり、3か月連続の上昇となった。7か月後方移動平均は前月より0.23ポイント低い102.7ポイントとなり、2か月連続の下降となった。

CI先行指数は前月より1.6ポイント低い97.5ポイント、遅行指数は前月より0.6ポイント低い103.3ポイントとなった。景気の基調判断（CI一致指数）は、「足踏みを示している」を据え置いた。

※今回公表分より、厚生労働省「毎月勤労統計」から算出に用いている3指標（所定外労働時間指数、常用雇用指数、きまって支給する給与）について、リンク係数を用いた接続方法に変更している（内閣府：「景気動向指数」における「毎月勤労統計調査」再集計値対応について <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/190207osirase.pdf>）。



[景気動向指数：内閣府](#)